

世界の米軍基地と平和への権利をテーマに講演する
ミコルさん(右)と笹本弁護士=10月31日、那覇市



米軍基地は人権侵害の元凶

イタリアの弁護士 国際的に連帯し抵抗を

世界の米軍基地と平和への権利を考える講演会が10月31日、那覇市内で開かれしました。昨年12月の国連総会で「平和への権利・国連宣言」が採択されましたが、その運動を進めてきたイタリアの弁護士で、国際民主法律家協会ジュネーブ代表のミコル・サビアさんが講師を務めました。

講演会 沖縄で

ミコルさんは、第2次世界大戦後の世界の米軍基地形成史を解説。米軍基地が造られることにより、▽地域の住民が追い出された▽世界規模で環境問題が引き起こされている▽レイプなどの犯罪行為が繰り返されている▽基地に反対する表現の自由の侵害などの人権侵害が起きていると告発しました。ミコルさんは「米軍基地は新しい植民地の始まりです。これに対して、連帯して対抗することが大切です。住民の人権を守る視点で対抗していくことがいいでしょう」と講演を結びました。

で、平和への権利国際キャンペーン日本実行委員会事務局長の笹本潤弁護士が通訳しました。会場からは、日本とイタリアの地位協定の違いについて質問が出されました。ミコルさんは、イタリアの地位協定の一部は公開されているが、秘密にされていることが多く、運動ができていく状況があると説明しました。ミコルさんとともに来日した韓国のチャン・キョンウさんは「国際的に手をつないで抵抗の声を上げていきたい」と感想を述べました。

と日本国際法律家協会の主催

ネットワーク九条の会沖縄